

環境生命科学専修

本専修でも数少ない「人間の生物学」を学べる専修です。個体としてのヒトの健康事象を把握するために不可欠な人間生物学、その個体を構成要素とする臓器・細胞・分子レベルにおける生命科学、ならびに人間の集団が活動する場となる人間・生態系に関する環境学の修得を目標とします。分子から集団に至る全ての階層において、人間（ヒト）には他の生物にはない様々な特徴があり、それらを修得することは健康以外の多くの分野にとっても有用であることは間違いありません。科目を担当する多くの教室が国際的研究を進めており、国際的雰囲気に触れやすい環境でもあります。

卒業後の進路として進学・就職いずれを選ぶにせよ、この分野の国際的なリーダーとなって牽引する役割を担う人材を養成することを目指しています。大学院に進学する場合、健康科学におけるジェネラリストの視点を身につけた生命科学・人間生物学分野の研究・教育者として国際的に活躍することが期待されます。就職する場合も人間にかかわる生命・健康・環境の知識・技術という専門性を活かせる場所は数多く、企業（製薬・食品・バイオ・環境）や国・自治体の行政職、民間シンクタンク、マスメディアなどの道が開けています。

健康を計量的・質的に把握して、行動・医療保健サービス・社会制度・規範との関係を解明し、3) 科学的方法論に基づいて疾病予防や治療・健康増進を進めることを通じて、人々の健康と幸福に貢献できる実務者および研究者を養成します。具体的には、医学・疫学研究のデザインやデータ分析の方法論、治療や予防の効果検証手法、疾病の社会的負担や保健医療政策の分析手法、健康の社会・行動的要因の測定・分析方法、調査の設計と実施、そしてデータに基づく対策や提言の立案・実践手法等を学びます。これらを活用し、グロー

卒業後の進路としては、保健・医療・福祉に関連した国や自治体の行政職、マスコミ、出版、シンクタンクなどの民間企業への就職があります。また関連する大学院に進学し、専門の高度な知識・技術や研究遂行能力を身に付け、教育研究機関、NPO、行政、民間企業、国際機関などへの就職実績があります。

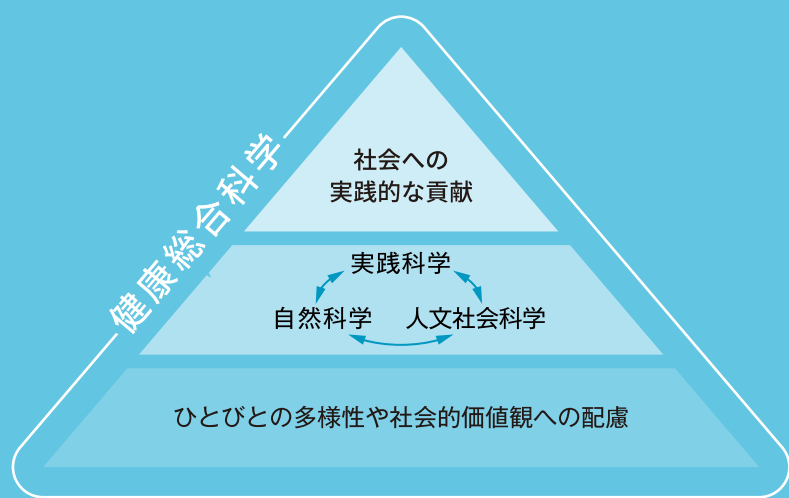
捉え、それを取り巻く社会環境との関連で科学し実践する学問です。具体的には、生命科学実習あるいは健康科学調査実習、マネジメント能力養成のための実習および国際保健の現場における実習を通して広く健康に必要な実践力を涵養します。その上で、人の健康増進・維持・回復を目的とした場での実習を行います。このように看護科学を基礎科学から臨床技術まで横括化した学問体系を教授し、従来になく新しい看護科学の発展に寄与します。さらに、グローバル化を促進しつつ日本の優れた看護学を世界に発信します。

A 国際社会に貢献できるグローバルな人材を育成するために、海外渡航支援活動を行っています。海外渡航支援活動は、「日本で学べないことを、海外で経験したい」という学生の熱意を支えるために、海外研修の費用を支給する制度です。学生は、自分の興味や関心に従って自主的に研修先の決定、研修内容の企画、研修先との交渉、調整などを行います。また、海外渡航支援活動に担当する教員が万全のサポートをしますので、学生の皆さんは安心して海外研修を行うことができます。



本学科の特徴は、みなさんの持つ高い能力をそれぞれの個性を活かした形でさらに伸ばして行くことにあります。理科系の出身者でも医療倫理や医療経済学を学ぶことができます。また文科系の出身者も生命科学や統計学など将来必要となる教科について、分かりやすく講義を受けることができます。さらに医師を希望する場合には本学医学科へ入学し入学制度もあります。このように健康総合科学科はみなさんの持つ「能力」と「意欲」を思う存分発揮する環境を整え、グローバルな視点で「健康総合科学」を世界に発信して行くことをめざしています。

ひとびとの健康を通じた
ウェルビーイングの達成



カリキュラム

詳しい講義日程はシラバスを確認してください。

科目種別	単位数	
共通必修科目	41 (43) ^{※1,2}	※1 括弧内は文科出身者必修単位数 ※2 教職選択の場合はそれぞれプラス2単位 ※3 選択科目には他専修の専修必修科目を選択することも、36単位ある選択科目のうち、環境生命科学専修は16単位以上、公共健康科学専修は15単位以上の履修を要する（看護科学専修は要件なし）
環境生命科学専修必修科目	11	
公共健康科学専修必修科目	12	
看護科学専修必修科目	53	
選択科目	36 ^{※3}	

2年後半

健康総合科学科のカリキュラムは前期課程 A1 から始まります。
この時期は健康総合科学の基礎知識を幅広く学び、毎週 4 日は本郷キャンパスで学習していきます。
環境生命・公共健康・看護科学を並行して学習しながら、11 月に 3 専修の一つを選んで登録します。

3年前半

後期課程カリキュラムの最初のこの時期は、基礎をより深く学習していきます。
医学・看護学・生物学・社会学・統計学を中心に知識を深め、必須実習科目も増えてきます。

3年後半

より幅広い知識と専門的な知識を学習するこの時期は、一人ひとりの進路が明確になる時期です。
看護科学専修では臨地実習を開始します。

4年前半

いよいよ卒業論文の研究が始まる時期です。研究は、各講座に所属してテーマを選び、取り組みます。
環境生命科学専修・公共健康科学専修は、卒業論文が必修になり、看護科学専修も多数が履修します。

4年後半

卒業論文作成や看護学実習で毎日が充実する時期です。
看護科学専修の学生は、2 月に看護師国家試験を受験します。

卒業論文提出・発表

健康総合科学科の全教員および学生の前で卒論を発表します。
優秀者には「研究奨励賞」が贈られるとともに、「総長賞」にノミネートされます。

大学院

健康科学・看護学専攻

誕生から終末期までのさまざまな健康レベルの人々が安全・安楽な生活を送ることできるような支援方法論や、看護を効果的に提供する方法論の解明・開発を行う研究者育成を主な目的とした大学院です。修士課程は看護学講座（保健師／助産師教育コースも設置されています）から、博士課程は健康科学講座と看護学講座から構成されます。

<http://hsn.m.u-tokyo.ac.jp/>

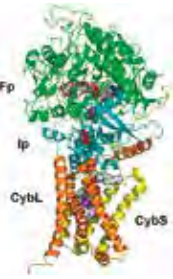
国際保健学専攻

生物医学科学と社会医学的なアプローチをあわせ持つことにより、環境、遺伝、感染症、保健計画などの分野で国際的に貢献できる人材の育成を目的とした大学院です。世界保健機関や諸外国の大学・研究機関との国際的な研究ネットワークを有し、修士・博士を通じて英語のみで学位が取得できる教育・研究環境を整えているのが特徴です。

<http://www.sih.m.u-tokyo.ac.jp/>

医学系基礎科目（2年後半）

本学科の教育・研究の特徴を各分野について解説する「健康総合科学概論」、「ヒト」の理解に必要な基礎知識を学ぶ「解剖学」、「生理学」、また医療や健康問題に関してグローバルな視点から現状と研究の展開を解説する「国際保健学」など幅広い基礎医学、生命科学の講義を受けることができます。



生命科学実習Ⅰ・Ⅱ laboratory method : ラボメソ

2 週間、各研究室を回り実験手技を習います。医療を支える研究を体験し、学生同士が学習した内容について意見交換を行い、レクチャーをし合うなど実験・実習を通じ交流を深める事ができます。



卒業研究風景



科目紹介

必修科目

環 … 環境生命科学専修

公 … 公共健康科学専修

看 … 看護科学専修



人類遺伝学Ⅰ、Ⅱ[※]

※Ⅱは環境生命科学専修のみ必修

ゲノムにコードされた遺伝情報はあらゆる生命現象の基礎です。ヒトゲノム配列が決定されたことは、今後のヒトの生命科学のための基礎ができたことを意味するに過ぎません。医学・医療・生命科学領域においては、分子生物学の技術のみならず、伝統的な遺伝学の考え方も理解する必要があります。講義では、そのような人類遺伝学の基礎を理解していただくことを目標とし、同時にいくつかの分野について研究の最先端を紹介します。



タンパク質の 3 次元構造と変異の集積

健康科学調査実習

健康科学・看護学の基本的な方法論であり、また健康関連ビジネスでも顧客ニーズの把握に必須である社会調査の方法について、講義・グループワークを通じて実践的に勉強します。調査の目的の設定、それに合った手法の選択、各種調査法の長所短所、実施上の問題や倫理的配慮などについて学びます。



母性看護学／母性看護学実習

次世代育成支援は、世界共通の大きな課題です。母性看護学・助産学はこの課題に取り組む専門です。母性看護学の対象は、妊娠・分娩・産褥期にとどまらず、女性の一生を通して子を産み育てる機能・役割に関する健康事象全般、女性を取り巻く社会全般です。講義と実習を通して、思春期から更年期の女性、妊娠・出産・産後の母親と新生児のケアに関する現状を学び、最新の知識・技術を習得します。



基礎生命科学^{※1}／生命科学・ゲノム学Ⅰ、Ⅱ^{※2}／栄養学

医学全般の理解に必要な最新の「基礎生命科学」、「生命科学・ゲノム学Ⅰ、Ⅱ」を文科系出身者にも判りやすく講義します。また食の科学、生活習慣病とそれにかかわるメタボリックシンドロームを扱う「栄養学」など、健康を維持するための基礎科学を学びます。



※1 文系必修
※2 Ⅱのみ環境生命科学専修、公共健康科学専修のみ必修

生命・医療倫理Ⅰ

生殖医療・移植医療・終末期医療の倫理から研究倫理・公衆衛生の倫理まで、健康科学の発展に伴って生じる倫理問題、および健康科学に内在する倫理問題を扱います。基礎的な理論に関する講義を踏まえて、ケースを用いた討議を行います。



健康教育[※]（職域・地域）／社会と健康

<健康教育（職域・地域）>職場、学校、地域などさまざまな暮らしの場面で健康づくりを支援するための手法や専門家としての関わり方について、ケースメソッドによるディスカッションを通じて理解を深めます。
<社会と健康>医療サービスや生活習慣に留まらず、経済状況・社会関係・文化規範や制度などの「社会的決定要因」がひとびとの健康にどう影響するのか、健康づくりにどのような役割を果たすのかについて考察します。



※ 選択科目

心の健康科学[※]／精神看護学[※]／精神保健学実習

うつ病や自殺の予防、精神障がい者の支援、職場のメンタルヘルス等の最先端の知見について、精神保健学と精神看護学の 2 つの情報を統合して地域での健康課題を分析する方法を学びます。実習では、実際に自宅へ療養する方のご自宅を訪問し、そこでの看護技術を学びます。



※ 看護科学専修必須

基礎看護学Ⅰ／看護支援技術論／看護管理学

基礎看護学では、看護の概念や機能を理解し、看護の基礎となる人間観・生活観・健康観・倫理観を培うことを目指します。また、看護の諸理論、及び、人を理解し援助するための知識・技術を講義・討議・演習、病院実習を通じて学びます。看護管理学では、組織的・効果的に良質な看護サービスを提供するために必要な看護管理の基礎概念（MPH）一が授与されます。



人類生態学

文字通り、人間の生態学の基礎を学びます。動物や植物の生態学と大きく異なる点は何なのか、その違いが人間の生活・生存・健康にどのようなインパクトを与えているのかという問いに、栄養・疾病・人口・生計（生業）活動・都市などの切り口で講義・議論をし、人間－生態系という概念の理解を目指します。



母子保健学

母子保健は一生の健康の基礎を築く出発点です。この出発点を起点とした生涯に続く健康の課題、母子ユニット、家族、コミュニティそして現代社会・政策による数々の影響因子、国内外情勢に直面している多彩な課題、およびそれをサポートする保健・医療について学びます。



生物統計学実習

新薬をはじめとする新しい治療法や診断法、予防法の開発、そして疾病のリスク因子の評価を行う臨床・疫学研究には統計的考え方やその手法の応用が必須となっています。本実習では、模擬ランダム化臨床試験を学生さん自らが被験者となって実施することを通じ、臨床研究の一連の流れ（計画・実施・データ解析・報告）を習得します。



地域看護学[※]／在宅看護論／在宅看護学実習

地域に住んでいる人々の健康状態・生活の様子を把握すると同時に、人口密度や疾患の発生率等の統計資料を分析し、これらの情報を統合して地域の健康課題を分析する方法を学びます。実習では、実際に自宅へ療養する方のご自宅を訪問し、そこでの看護技術を学びます。



※ 選択科目

家族と健康／小児看護学実習Ⅰ、Ⅱ／統合実践実習

家族発達論や家族システム論などの応用から、健康と家族の関係、家族自体の健康についての見方を学習します。保育所では、子どもの成長発達や集団生活の特徴を学び、子育てへの支援について実習します。また、特別支援学校分教室では、病弱管理学では、組織的・効果的に良質な看護サービスを提供するために必要な看護管理の基礎概念（MPH）一が授与されます。



国際保健学

環境、感染症、紛争、災害、格差などグローバルな健康問題に対して人類はどのように立ち向かえばよいのでしょうか。この講義では、そのための考え方と方法を示し、ともに考えます。世界に飛び出し、グローバルに活躍することを目指す君たちへ、国際保健学専攻の教員からのメッセージです。



疫学／生物統計学

疾病・健康に関わる事象の原因や影響因子とその強さを評価し、最終的には予防手段につなげるためには、それらを集団中で計量的に捉え、データ収集・分析・解釈を科学的にすすめることが不可欠です。「疫学」、「生物統計学」、「医学データ解析・実習」、「応用数理」、「理論疫学」などの講義により、統計解析の基礎から最先端の解析手法まで、系統的に学ぶことができます。



医療人類学

近代医学によって規定される「病気」は、全ての社会で病気とみなされている訳ではありません。死と生の境界線、倫理効果、非西洋医学の身体観、カニバリズムの解釈、呪術・民間療法、血の穢れなど、医療人類学のトピックスについて、ゼミ形式の授業で意見をたたかわせましょう。世界のみえかたがわかるかも。



卒業生・学部生のメッセージ

- 1 近況報告
- 2 健康総合科学科のアピールポイント、後輩にひとこと

野寄 修平 理科一類/2015年度卒業

2015年度東京大学総長賞（学業分野）受賞。
卒業時に看護師の免許を取得。
卒業後は大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻へ進学

- 1 病棟や施設での実習に取り組んでいます。学座だけでは得られない学びが多くあります。
- 2 生命科学などの基礎分野から看護学などの応用分野まで、さまざまなレベルでの学習を通じて健康、医療についての専門知識やリテラシーを身につけることができます。医学だけでなく、社会学や工学を応用した健康への様々なアプローチを学ぶことができるのもこの学科の魅力だと思います。

坂井 千香 理科二類/2005年度卒業

生物医化学教室にて修士・博士課程を修了後、国立精神・神経医療研究センターにて研究員。
2015年4月、生物医化学教室 特任研究員を経て同年10月から国立がん研究センターにて研究員

- 1 博士課程まではヒトのミトコンドリアの基礎研究を行いました。国立精神・神経医療研究センターにてミトコンドリア病患者の臨床研究に関わりました。患者さんのために基礎的研究者と医師などが密に協力し合うことの重要性を体感しました。現在はがんや寄生虫症の研究にも携わっています。
- 2 この学科は素晴らしい先生方や先輩方がおり、とても恵まれた環境です。焦らず真面目に努力を続ければ必ずと聞はけてくると思います。

中村 奈央 文科三類/2006年度卒業

卒業後、東京大学医学部附属病院（女性診療科・産科）に勤務、2011年より日本看護協会にて看護関連政策提言業務に従事
政策研究大学院大学修士課程修了、保健師、助産師、看護師

- 1 看護職の力を最大限に活用して、社会に役立てるために、必要な政策や制度を検討し、その実現に向けて活動しています。
- 2 人々の健康を守ることは、困難ですが取り組む価値の高いテーマです。特にこれからの日本では、力のある人材が多く必要とされています。様々なアプローチからこのテーマに迫る。開口が広い奥の深い学科だと思います。アウトホームで、帰るたびにいつも新しい出会いがあり、卒業後もずっとお世話になっています。

岡本 真澄 文科三類/2009年度卒業

卒業時に保健師、看護師の免許取得。
2012年国際協力機構JICA入籍、東部アフリカ地域の保健医療案件担当者として企画立案や評価に携ったのち、現在は同研究所にて国内外の機関との共同研究の企画・運営を行う他、研究者としてもプロジェクトに参画している。

- 1 「人々の生活をよくなるため」に一流の研究者や政治家から、途上国の政府役人、医療従事者、一般の人々まで多様な人との対話を重ねて研究や実務を展開しています。
- 2 学生のうちの出会いが職業人としての方向性を決めるとしても過言ではありません。研究、臨床、地域と様々な現場がある当科はまさに出会いの「宝庫」です。人々の健康を守るために自分は何ができるか心で感じとり、頭で考えてみてください。

貫名 智美 文科二類/2011年度卒業

卒業時に保健師、助産師、看護師の免許取得。
2012年 東京大学医学部附属病院A13南病棟（神経内科・呼吸器内科）入職
現在大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻 大学院生

- 1 疾患や症状を受容して生活出来るよう支援し、患者の目標にむけてチームで考え、支援していくことはとても面白く、看護のやりがいを感じています。現在は臨床に没頭していますが、今後は大学院へ進学し、いずれは訪問看護等地域社会にも携われたらと思っています。
- 2 当学科の素晴らしい先生方、高め合える同期のもと、多くの実習で感じた事・学んだ事が今の原点になっています。他にはない充実した2年間を送ることが出来ます。

藤野 克樹 理科一類/2005年度卒業

生物統計学修士課程修了（2007年度）
現エーザイ株式会社（臨床開発職）

- 1 エーザイという会社で生物統計担当として抗がん剤の開発をしています。
- 2 例えば薬が効くのか効かないのか、パラツキのあるデータから結論を導けるのが生物統計の醍醐味です。生物統計家は、学生時代に学んだ知識や技能をそのまま仕事に活かすことが出来、それが世界中の患者さんやご家族の助けになるという非常に稀で魅力的な職種です。最近は特にデータの重要性が叫ばれており、引く手数多であることもオススメできる点ですね。

金子 美穂 理科二類/2004・2013年度卒業（学士編入時）

生物医化学教室にて修士・博士課程修了の後、2年間博士研究員を務め、2012年4月 健康総合科学科3年次学士編入、看護師・保健師・助産師資格取得し卒業。2014年4月より長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 新興感染症病態制御学系専攻 感染免疫学講座 分子疫学分野 助教

- 1 長崎大学で、ロタウイルスに関する分子疫学の研究を行っています。実験手法も、臨床研議も、社会医学的視点も活用しています。
- 2 基礎の生物学実験から臨床の現場まで、幅広く学ぶ機会と多様な出会いに恵まれました。皆さんも、学科の特徴を活かして色々なことを経験してみてください。「健康」という共通の目標に対する多角的なアプローチを学ぶうちに、自分がどの分野のプロフェッショナルになりたいのかが見えてくると思います。